

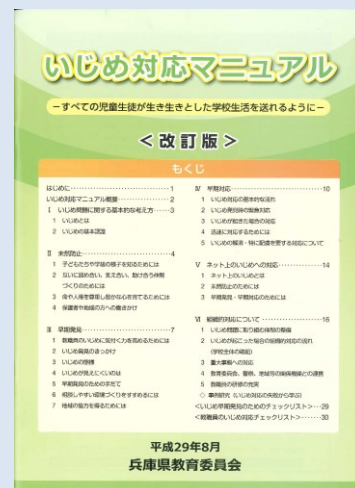


今年も残すところ後わずかとなってまいりました。2学期のまとめ、そして、振り返りをされていることと思います。冬季休業日は、約2週間と短いですが、今年1年の振り返りをし、新年への思いを新たにできる貴重な期間です。先生方にとって、ぜひリフレッシュできる休みにしてほしいと思います。寒さ厳しい折りですので、健康には十分気をつけてお過ごしください。そして、3学期の始業式には、また笑顔いっぱいの元気な姿を子どもたちに見せてください。

さて、今年もたくさんの学校を訪問させていただき、日々頑張っておられる先生方の様子や生き生きと取り組んでいる子どもたちの姿を見ることができました。学校行事やさまざまな職務等でお忙しい中、訪問させていただきありがとうございました。多くの先生方といろいろなお話をする中で、学習指導上のことはもちろんですが、生徒指導上の悩みや課題もたくさん聞かせていただくことができました。そんな中、いじめに対する認識やその対応についての話もありました。

すでに、先生方の手元に届いており、校内での研修もされていると思いますが、兵庫県教育委員会から今年の8月に再改訂された「いじめ対応マニュアル」—すべての児童生徒が生き生きとした学校生活を送れるように— <改訂版> を今一度 手にとって下さい。兵庫県教育委員会では、平成19年に「教職員用いじめ早期発見・対応マニュアル」を作成し、平成24年度に改訂しました。また、平成26年3月には「兵庫県いじめ防止基本方針」を策定し、本年3月に国の基本方針の改訂にともない改訂しています。今回改訂したポイントは、以下の通りです。ご確認ください。

- ① いじめ防止対策推進法に基づく「いじめの定義」を記載しました。
- ② 「いじめ防止等のための基本的な方針」に基づく「いじめの解消」について記載しました。
- ③ 「いじめ防止等のための基本的な方針」に基づく「特に配慮を要する対応」について記載しました。
- ④ 「いじめの重大事態の調査に関するガイドライン」に基づく「重大事態への対応」を記載しました。
- ⑤ 新たに「いじめ対応事例」を記載しました。
- ⑥ 教職員が自身の活動を点検できるチェックリストを新たに加えました。
- ⑦ 本県の「いじめ防止基本方針」の改訂を受けて、本マニュアルにもその内容を盛り込みました。



近年の団塊の世代の退職から始まった世代交代により、私たち教職員の世界も若く元気な教職員が増えてきています。そんな中、学校を牽引するミドルリーダーの存在もますます重要となってきています。そこで、来春退職される4名の校長先生方に、丹波地域の先生方へ教育に対する熱き想いを書いていただきましたので、今月号から**随想**として掲載させていただきます。

「それぞれのステージでの出会いと学び」

丹波市立山南中学校長 足立宏規

振り返れば、38年前に新任として着任したことがついこの前のような気がする程、短く感じる。小学校→中学校→小学校→中学校と渡り歩き、落ち着きのない教職員人生だった。それぞれのステージに於いて、いろんな人と出会い、多くのことを学び、沢山助けていただいた。周りの人のおかげで今日の自分があるのだとつくづく感じる。本当に感謝、感謝である。少し振り返ってみたい。

【教員としてのスタート（小学校教諭、学年単学級）】

「日々新た」と言われるように、その日暮らしで無我夢中の1年目だった。とにかく、周りの先生によく尋ねた。2年目は「体育担当を頑張る」、3年目は「指導案を書く」、4年目は「学級通信を書く」等、その年の努力目標（テーマ）を決めて取り組んだ。「今年は〇〇を頑張ろう。」という目標（テーマ）を決めて取り組むことは大切である。当時の管理職から「教育に携わる者として大切にしたいこと（信念）を創るように。」と言われた。確かに、時代が変わり子どもの質が変わろうとも芯を持っていればそれを中心に考えればいいので揺らぐことはない。自分の成長と共に変わると思うが、当時私は「自分が変わらなければ人（子ども）は変わらない。」と考え、「自己を見つめ自分を変える（マインドコントロールできる）」こと、いわゆる「自己教育力の育成」が大切だと思っていた。その思いは変わらないが、今も「これでいいのか」と自問自答している。だから、子どもに「あなたはどう思うの?」「自分にとって大切なのは何?」と自分自身を見つめさせる接し方をしてきた。

【大きな学校へ（小学校、学年複数学級、ステージ2）】

同学年に複数学級あることで、授業や生徒指導に関して学年の先生と相談できた。また、学年間での教材研究や授業研究（授業のある部分だけ見ることも含めて）を自主的・意欲的に取り組んだ。「良いと思うことはやってみる。うまくいかなかったら再考して他の方法でやってみる。責任は自分が持つ。」と精力的にチャレンジし、授業力や生徒指導力の向上が図れ、教師の楽しさや嬉しさ、何となくやっていけそうだと自信がついた時期だった。



【小学校から中学校へ（ステージ3）】

授業や生徒指導等、全てが一からのスタートだった。学校行事や部活指導等、慣れない中で戸惑いも多く、先が見通せない1年間だった。周りの先生方に支えられ、進路指導も経験し、少しずつ自信がついてきた。問題行動が多く生徒指導や保護者対応等良い経験をさせていただいた。生徒の側に立った指導や人間関係構築力、とりわけチーム（組織力）の大切さを痛感した。共通理解、協同実践の必要性を実感し、自分のポジションを意識しつつチームの一員として精進した。ただ、自分らしさ（個性）を生かす（忘れない）ことは強く意識した。

【篠山市から丹波市へ（ステージ4）】

「所変われば品変わる」と言われるように、地域が変わり風土が変わる中で、人脈もなく新たなスタートだった。人権教育（同和教育）推進加配、生徒指導加配、不登校担当加配、進路担当、学年係等いろんな立場を経験させていただいた。「経験が人を創る」と言われるように、いろんな立場や多くの出会いにより教育の幅や人間性の陶冶が図れた。

また、公民館や地域との連携に努め、学校と地域のつながりや人との関わりが深まり、教育の視野が広がった時期でもあった。さらに、3年間担任として持ち上がることができ、中学校3年間を見通した学級・学年経営の大切さを学んだ。人（生徒や保護者等）とのふれあいや人間関係作りの大切さを身に染みて感じ、かけがえのない時期であった。

【教諭から管理職へ（ステージ5）】

職種、校種、地域、人脈等、全てが新しく、全く一からのスタートだった。慣れない中、不安だらけで精一杯の日々だった。校長や教職員・地域の方々との対話を重視し、人間関係構築に力を注いだ。「分からなかったら人に尋ねる。一步前進したら見える景色も変わってくる。」と思い精進した。忙しさの中に教頭として学校経営を推進している手ごたえがあり、大変充実していた。

さらに小学校校長→中学校校長と進み、小学校のきめ細やかさや丁寧さ、中学校の機動力や専門性を学んだ。

冒頭にも書いたが、生徒あつての学校・職員あつての学校であり、多くの方に支えられてきた。判断に困ることは多々あるが、「一点突破、全面展開」と言われるように、物事を出来るだけシンプルに捉え「〇〇のためには何をするか」具体的な行動目標を一つ決めて実践することを意識している。小学校と中学校では子どもの発達段階が違うので指導支援のあり方は異なるが、かけがえのない存在である一人一人の子どもの教育へのベースは変わらない。子どもが主役、子どもの側に立った授業や指導の展開を大切にしたい。

結びに、「子どもを育ててなんぼ」教師は結果を問われる。目に見える成果は分かりにくいですが、1年間やって自分なりに手ごたえを感じたい。自己責任や結果を意識したいと思う。

